

対象年度	令和 7年度	総合計画実施計画策定及び行政評価シート
------	--------	----------------------------

事務事業名	農業再生対策事業					予算事業名	農業再生対策事業費						
予 算 科 目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	06	01	10	23	経常経費

総合計画体系	歴史と自然を育み にぎわいと活力ある産業を目指そう 特色ある農業の振興と活性化 活力ある産地の育成							事業の区分	主要事業				
								担当課係等	農政課 農政係				

事業期間 継続 (年度～ 年度)

【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】 需要に応じた米の生産と新規需要米等の他作物への作付け転換によって水田農業経営の所得安定を目指す。	【事業開始のきっかけや他市の状況など】 米の過剰生産を解消するため生産調整が始まり、水田・陸田において主食用米以外の作物の生産（転作）が推進された。
---	---

【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】 主食用米の需要に応じた生産調整を達成させるために、新規需要米の作付けを推進し、併せて農業経営の安定を図るための補助を行う。 ・担い手育成支援対策事業補助金 ・主食用米過剰作付け解消奨励金 ・新規需要米奨励金 農業再生協議会運営のための事務費 ・市農業再生協議会補助金 ・経営所得安定対策等推進事業費補助金	【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】 農業者 【事業をとりまく環境の変化】 人口減少や食の多様化により主食用米の需要が減少傾向にあるため、今後の水田農業を維持するには米の生産者、集荷業者等が主体的な経営判断や販売戦略に基づいて消費者が求める需要に応じた生産を行う形態を確立していく必要がある。
---	---

【令和 7年度 事業内容】	【令和 8年度 事業内容】	【令和 9年度 事業内容】
高収益作物を含む新規需要米等への生産転換を支援し、主食用米の生産調整を進める。	高収益作物を含む新規需要米等への生産転換を支援し、主食用米の生産調整を進める。 山川あやめ園を公園として整備するのに伴い、隣接する敷地を駐車場として使用するための整備を行う。	高収益作物を含む新規需要米等への生産転換を支援し、主食用米の生産調整を進める。

■事業費

		R05年度	R06年度			
財源内訳	国庫支出金	0	0			
	県支出金	5,665	5,665			
	地方債	0	0			
	その他	0	0			
	一般財源	33,916	32,800			
歳入計（千円）		39,581	38,465			
歳出内訳	節（番号＋名称）	金額（千円）	金額（千円）			
	12 委託料	781	0			
	18 負担金補助及び交付金	38,800	38,465			
歳出計（千円）（A）		39,581	38,465			
伸び率（％）			-2.81			

備考 総合計画84ページ 予算書134、135ページ

令和 5年度行政評価シート

■指標

種類	指標名	単位		R05年度	R06年度	R07年度
活動指標	転作現地確認作業延べ人数	人	目標	88.00	88.00	88.00
			実績	88.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果指標	転作率	%	目標	100.00	100.00	100.00
			実績	135.77	0.00	0.00
	転作実施した面積/転作を配分した面積		目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	当該事業は、農業経営の安定と国内生産力の確保を図り、食料自給率の向上と農業の多面的機能を維持するために実施している。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	経営所得安定対策等実施要綱に基づき農業再生協議会を設置している。
	手段の妥当性	A 妥当である	経営所得安定対策等実施要綱に基づき事業を実施している。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	事業の円滑に実施するため、行政と農業者団体（JA）が連携し協議会を運営している。協議会運営に対する国補助金が年々減少していることから人員削減をしたことで、残った職員への負担は増加している。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	生産者が作物（主食用米又は新規需要米当）の選択ができることから、新規需要米等の生産に対する支援はあるが、主食用米の生産に対する支援はない。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	R5転作達成率135.77%を達成、国によると民間在庫量も約200tと適正量となり、主食用米の価格も上昇傾向にある。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	近年の転作の達成率では130%台となっているが、国による飼料用米への交付単価の引き下げにより、主食用米への回帰が40ヘクタールとなった。主食用米の過剰作付けとならないよう現状の施策を維持・発展させていく必要があると考える。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
主食用米の価格があがれば、主食用米生産に回帰する生産者も現れると思われる。経営所得安定対策等推進事業に加え市単独補助金を継続することで、新規需要米等の生産拡大を支援し、併せて主食用米の生産調整に推進することが必要である。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
主食用米については生産状況・備蓄状況・消費者の消費動向などの情報を収集し過剰作付け（米価を下落させな）とならないように、市場が求める新規需要米等の生産への速やかに移行していけるように、水田収益力強化ビジョンを更新し産地交付金の配分など検討していかなければならないと考える。			

■方向性

<p>1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））</p> <p><input type="checkbox"/> 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） <input checked="" type="checkbox"/> 改善改革しながら継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続（改善・改革なし） <input type="checkbox"/> 統合・新規事業への展開</p> <p><input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 予定どおりの要求 <input type="checkbox"/> 一部改善の上要求 <input type="checkbox"/> 今回は見送り <input type="checkbox"/> その他の処置</p> <p>方向性の具体的内容 水田農業における経営安定を推進するため、水田収益力ビジョンに沿った農業者への支援を継続する。</p>
<p>2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））</p> <p><input type="checkbox"/> 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） <input type="checkbox"/> 改善改革しながら継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続（改善・改革なし） <input type="checkbox"/> 統合・新規事業への展開</p> <p><input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 予定どおりの要求 <input type="checkbox"/> 一部改善の上要求 <input type="checkbox"/> 今回は見送り <input type="checkbox"/> その他の処置</p> <p>企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり</p>